

2022年3月1日発行

22-09号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**答えは**

ベストセラーになった『バカの壁』という本に続く「壁」シリーズがある養老孟司氏が、最新作「ヒトの壁」を発表されたと、紹介する記事がありました。

「ヒトの壁」では、コロナとワクチン、コロナ禍に開催されたオリンピックや、亡くなった愛猫のまるにも触れながら、生物としての「ヒト」とは何かについて思索を深めることが書かれているということです。コロナ禍では、変異をくりかえすウイルスに、ワクチンも時間が経つと効力が失われ対応するのも大変です。結局のところ、天変地異と同じように、ヒトにはどうすることもできず、このまま翻弄されながら収束を待つしかないのかと問われて、養老孟司氏は「物事を予測して、コントロールしようとするのが現代人の一番悪い癖。」「考えれば答えが出ると思っているところが間違っていて、答えなんてないんです。」と言われます。

また、養老孟司氏は、子どもに感想文を書かせることは、おかしいと言われます。具体的に何が起きたかを記すのではなく、どう感じただけを書かせるのは、おかしいということです。論文とは、実験室で観察した記録であり、感想ではないということです。そして、日本の新聞記事も、感想文になっていないかと指摘されています。そして、日本人は他人の顔色を気にすることが世界で一番だろうということです。コロナ禍で、その傾向は一層強まっているということです。そのようなことも含め、「≪人生を顧みて、時々思うことだが、私の人生は、はたして世間様のお役に立ったのだろうか≫。こんな自分自身への問いかけから始まる本書は、コロナのこと、東京五輪のこと、愛猫まるの死などを通して養老さんが考え抜いた人生の本質が綴られ、世間に振り回されない思考を身につけられること請け合いだ。」と、本を推薦してありました。（3月1日NEWSポストセブン＜最新作『ヒトの壁』養老孟司氏「考えれば答えが出ると思っているところが間違い」＞より）

人生の本質を考えて書いておられる本なのですが、「考えれば答えが出ると思っているところが間違いだ。答えなどない」と言われることに、事実を見ておられるのだろうと思います。答えなどないのだから、子どもの教育も、顔色を見る生き方も考え直して、世間に振り回されない生き方をしたら良いということでしょうか。

たしかに人間は、自分自身すらもコントロールできず、理解もできず、答えも発見することができない存在です。その人間を見つめて、自分の中に答えを探そうとするので、一生、答えを探しながら生きるようになります。人間が、自ら答えを見つけることは不可能です。しかし、人間がどのように造られたのか、いったいなんのために造られたのか、そして、なぜ答えがないままさまよって生きなければならないのかを知るなら、まことの答えを知ることができます。そのまことの答えは、自分で考えて見つけるのではなく、それについて知って、事実を受け入れるときに分かります。まことの答えについて、いっしょに見てみませんか。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください